

令和2年度 中間評価

アンケート『折り返し地点での自己評価』による 意識の把握と改善に向けて

令和2年度 学校評価（中間評価）として、既に生徒のみなさんに「先生と生徒が授業を見つめるアンケート」への協力をお願いし、それを集計・まとめたものをもって教員に簡潔な面談を行ったところである（資料：学校ホームページ10月23日）。

一方、教職員には(2)にあるアンケート「折り返し地点での自己評価」を実施し、集計するとともに、その結果も踏まえて11月に面談を行う予定である。

このアンケートの問い合わせ大設題として、「新学習指導要領・評価」や「教育課程」への対応を問うもの12題、「働き方」つまり「労働の質と超過勤務の削減」への対応を問うもの8題、そして、「自分の座標と運動の向き」と称する教職員の学ぶ者・働く者としての自覚を問うもの6題から成る。

教職員には下のようなページに回答用紙そのものを添えて面談を行うこととする。

回答の傾向や解釈上の注意を□内に示した。

様

新学習指導要領・評価 教育課程への対応 自覚度

あなたの回答平均 (校内平均 3.0 / 4.0)

働き方 労働の質と超過勤務の削減への対応 自覚度

あなたの回答平均 (校内平均 3.1 / 4.0)

「自己評価」につきまとうことだが、本人の抱いている基準のあまさや理想の低さからポイントが高くなっていると思われる例もある。数値から単純にその教職員が優れている・いないと受け止めず、日頃の学習指導・生徒指導の言動の観察や、学習面では客観指標も参考にしたい。

自分の座標と運動の向きについて

問い合わせについての今の自分の位置とともに、これから「どちらに向かおうとしているか」を矢印で示してもらった。

矢印は、他者から見ても、あるいは組織の中の位置づけから考えてもそちらに変化してほしいと思われる向きに書かれた方（あるいは問い合わせによっては）と、むしろ逆の変容が望ましいと思われる方（あるいは問い合わせによっては）が見られた。

周囲の期待に添うばかりがいいことではないが、ご自身のさらなる伸長と、組織の一員としてご自身も含めていっそう働きやすくなるための参考にしてもらえるように用いたい。